



Title	基礎工学部化学応用化学科「情報活用基礎」の授業を振り返って
Author(s)	白石, 康浩
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2011, 12, p. 43-43
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70319
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

基礎工学部化学応用化学科「情報活用基礎」の授業を振り返って

白石 康浩（大阪大学 太陽エネルギー化学研究センター）

1) 授業概要

基礎工学部化学応用化学科では、入学後最初のコンピュータ演習として、情報活用基礎の演習科目を開講している。この演習では、サイバーメディアセンターの活用方法、計算機利用の手順、ウェブメールの利用方法、簡単な HTML 作成法を習得することや、これからの授業で必要となるレポートの作成方法、表計算、ならびにプレゼンテーションファイルの作成と簡単な発表のためのスキルを身につけるための演習を行っている。

講義・演習内容	コマ
メール・ネットワークエチケット	1
ワープロ	2
表計算	2
HTML 作成	4
プレゼンテーション	6

2) 授業内容

著者は一昨年から本授業を担当しており、これが 3 年目の担当である。受講者は新入生ということもあり、ログインにも戸惑うところからのスタートである。受講者は 60 名、TA の大学院生 2 名とともに一教室を使つての授業である。

レポートによる課題を毎週メールにより提出させた。課題の提出状況は極めてよく、毎回 9 割以上の学生はしっかり提出していた。

コンピュータそのものの使用方法については、多くの学生が理解していた。そのため初回授業においては、「ネットワークの仕組みについて」および「インターネット社会におけるモラル」、すなわちネットエチケットについての説明に多くの時間を割いた。

ワープロによるレポート作成については、書式の調整はもとより、Web 検索により情報の収集を行うことに重点を置いた。昨今の学生は様々な検索サイトを利用して実に手際よく情報を収集することができる。ところが、得た情報が正しいものであるかど

うかの判断をしないまま使ってしまう傾向が見られる。それゆえ、情報の出所とその真偽を確かめることの重要性を教えることに多くの時間を割いた。とりわけ、得た情報を出典として明記しない学生が多く、著作権の重要性の説明にも多くの時間を割くことが必要であった。このような問題はあるものの、ワープロによる文書作成に手間取る学生は少なく、今後のレポート作成には困らないと思われる。

初歩的ではあるが、HTML の作成も行わせた。数名の経験者はいるものの、多くの学生にとっては初体験であり、右往左往しながら皆真剣に取り組んでいた。自分のページを作成するということもあり、ほとんどの学生が個性的な HP 作りに取り組んでいた。仕上がりには差がみられ、やはりコンピュータに慣れている者とそうでない者の差が表れやすい課題であると感じた。

プレゼンテーションファイルの作成ならびに簡単な発表を行う課題も行った。情報に関連するキーワードを各自で調査し、5 分間のプレゼンテーションを行わせた。プレゼンテーションファイルに関しては、ほぼ全員の学生が問題なく作成していた。とはいえ、発表スキルは不十分である。自身の主張したい内容を、限られた時間の中で相手にうまく伝えるという行為に対しては多くの学生が未熟であると感じる。聞き手に十分な理解を促すための情報の挿入方法やその伝え方については、より多くの時間を使って指導する必要がある。

3) 終わり

昨今の学生の多くは、基本的には、コンピュータに慣れている。それゆえ、Web 検索を通しての情報収集能力は我々が教える必要もないほど高い。ところが、情報の真偽やその扱いに関しては理解しておらず、危うい使い方をする学生も多くみられた。情報の扱いに関する正しい知識を習得させられるよう努力していきたい。